

## はしがき

2015年9月25日に国連総会で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」(Transforming Our World: The 2030 Agenda for Sustainable Development)の中核は17の持続可能な開発目標(ゴール)(Sustainable Development Goals: SDGs)と169のターゲットである。国連での採択から3年がたち、世界で様々なアクターにとってSDGsは行動・活動の基盤となってきている。

毎年7月の国連ハイレベル政治フォーラム(High Level Political Forum: HLPF)で各国政府による自発的国別レビュー(Voluntary National Review: VNR)が行われてきているが、世界の多くの諸国がSDGs実施計画を策定したり、国家開発計画にSDGsを取り入れてきたりしている状況が報告されている。グローバルな諸課題に取り組むNGO(非政府組織)・CSO(市民社会組織)の多くが、SDGsの実現を何らかの形で活動の目標に入れるようになっている。また、本書の最後で日本の実例が紹介されるが、地方自治体、民間企業、大学をはじめとした教育機関など様々なセクターの組織の間でもSDGs実施への取り組みが増えている。メディアでもSDGsが取り上げられる機会が多くなっている。

以前のミレニアム開発目標(MDGs)が途上国の貧困削減や社会開発に焦点を当てていたのに対して、このSDGsは、4年間にもわたる多様なアクターが参加した交渉プロセスを経て生まれた、世界中の国々の経済・社会・環境の3つの次元の広範な問題領域に焦点を当てたものである。扱う問題領域の広さや、ゴールやターゲット、そしてインディケ이터(指標)の多さから、相互の矛盾を感じる箇所がないわけではなく、多様なアクター間の「妥協の産物」ではないかと感じる部分も少なくない。

世界各地の多様なアクターが次第にSDGsに取り組むようになってきている

とはいえ、日本社会でも十分浸透しているとはいいがたい。終章でも述べるように、SDGs についての社会の理解の促進は世界的な課題となっている。本書は、SDGs についての理解を広めることとともに、SDGs の背景にある理念でかつグローバルな市民社会の国際協力の長年の理念でもある「誰一人取り残さない」、人権、ジェンダー平等をしっかりと踏まえつつ、市民社会的な視点からの批判性も持ちながら SDGs を取り巻く諸問題をわかりやすく説明し、一緒に考えていこうという趣旨で企画された。

SDGs を含む2030アジェンダの全文の仮訳は外務省により作られている。本書では、外務省仮訳を基礎にしつつも、市民社会として強調したい人権ベースの視点や、市民社会の立場から持ってきたいくつかの用語の訳語に対する疑問点もふまえ、私たちなりに一部改訂してみた。序章の後半で、本書版のSDGs のゴール・ターゲットの改訂訳を掲載している。

2030アジェンダの様々な概念や用語の日本語訳については、本書の執筆者の間でも考えの異なるものも少なくない。各執筆者のお考えを尊重し、あえて编者による統一をはからなかった場合があることをお断りしておきたい。

本書の企画は、法律文化社の舟木和久さんから编者の一人である高柳への「国際協力についての入門書を企画してみませんか」というご提案から始まった。その後、大橋も编者として参加し、国際開発研究と国際開発協力のCSOの両方で長年の仲間である2名の共編で、SDGs を前面にした企画とすることとなった。そしてSDGs の多様な問題領域の第一人者の方々に執筆をお願いした。

各章の執筆者の皆様は、学界、CSO や国際機関での実践、あるいはそれらの複数において第一線でご活躍の方々であり、ご多忙ななか、短い期間でご執筆いただいたことに感謝申し上げます。また、企画・編集でご尽力いただいた舟木さんに厚くお礼申し上げます。

本書が、日本社会においてSDGs の理解がいつそう深まり、また2030年に向けて日本社会を含む地球社会の全体の変革に向け、より多くの方々が考え、行動するきっかけになることを期待したい。

なお本書作成の最終段階で、第5章をご執筆頂いた、私たちが揃って尊敬する国際開発学の大先達であり、国際開発学会・日本平和学会会長等も歴任された西川潤先生がスペインで急逝されたという報に接して驚愕した。このために本書の発行を少し遅らせることも検討したが、先生なら「一刻も早くこの本を出しなさい」とおっしゃられるだろうと考え、編者で5章の再校を終えて、ほぼ予定通り発刊することにした。先生が急逝されたことは残念で仕方がないが、心より哀悼の意を表したい。

2018年10月

編著 高柳彰夫・大橋正明